

- ① 女子 59名、男子 1名
- ② 現役 53名、1浪 7名
- ③ 地域別入学者数

| | |
|-----------|-----|
| 北海道・東北地方 | 1名 |
| 東京および関東地方 | 55名 |
| 信越地方 | 0名 |
| 東海地方 | 0名 |
| 近畿地方 | 1名 |
| 中国・四国地方 | 1名 |
| 九州・沖縄地方 | 2名 |

- 2. 平成29年度オープンキャンパスは、平成29年7月22日と23日の2日間実施し、参加者数は549名(前年比+24名)であった。また、11月6日にミニオープンキャンパスも開催し、参加者は186名(前年比-99名)であった。
- 3. 受験生の確保を目的に、学外で開催された大学ガイダンス等に教員・学事課職員が参加した。
- 4. 高等学校2校(7月18日に都立府中高校35名、10月11日に田園調布学園高等部32名)へ訪問した他、12月12日に熊本第1高等学校40名、3月21日に新宿セミナー生(保護者含む78名)が本校に来学し、模擬講義を行った。
- 5. 受験生応援サイトをリニューアルした。

Ⅲ. 国家試験

1. 看護師・保健師国家試験

第107回看護師国家試験は、平成30年2月18日に、第104回保健師国家試験は、平成30年2月17日に実施され、その結果が3月26日に発表された。看護師国家試験は23期生56名、22期生1名が受験、57名全員が合格(100.0%)し、保健師は23期生19名が受験し、16名が合格した(84.2%)。

なお、全国の看護師国家試験合格率は91.0%、保健師国家試験合格率は81.4%であった。

Ⅳ. 学生生活アドバイザー

平成21年度より、学生生活をより豊かなものとするため、学習上や生活上の悩みを気軽に相談できる学生生活アドバイザー制度を導入した。1、2年生を対象とし、比較的若手の教員が5～6名の学生を担当し、前期・後期それぞれ1回の交流活動の他、適宜自由に活動を行なった。学生アンケートの結果は好評であった。

Ⅴ. 進路指導関係

学生への進路指導については、早期から担当教員が個別面談を実施するなど、きめ細やかに対応を行った。また、ナース就職支援室と協力し、分院の見学バスツアーを行うなど、慈恵への就職指導にも力を入れた。

平成30年3月卒業生57名の進路の内訳は、次のとおりであった。

| | |
|------------|-----|
| 本学附属病院への就職 | 37名 |
| 進学 | 3名 |
| 保健師として就職 | 1名 |
| 他病院就職 | 15名 |
| その他 | 1名 |

(3) 大学院

1. 医学研究科医学系専攻博士課程

平成19年度より大学院改革を実施し、以後大学院の改善充実化を図るため種々検討を重ね、平成29年度は以下のとおり実施した。

1) 研究助成制度の運営

平成22年度の経常費補助金特別補助の大幅な見直しにより、大学院生に対する大学院研究助成金と大学院教員に対する医学研究科研究推進費の助成制度が廃止された。本学では研究の

充実化と活性化を堅持するため平成29年度は以下のとおりとなった。

- ① 大学院研究助成金
 - ・平成29年度採択件数：22件
- ② 医学研究科研究推進費
 - ・平成29年度採択件数：新規2件、継続2件
- ③ 萌芽的共同研究推進費
 - ・平成29年度採択件数：新規5件

2) がんプロフェッショナル事業「関東がん専門医療人養成拠点」の設置

筑波大学を代表とする連携大学のひとつとして文部科学省がんプロフェッショナル事業「関東がん専門医療人養成拠点」に加わり、がん研究者の人材養成を推進するため、平成30年度より、①がんゲノム医療人養成コース、②小児・AYA・希少がん専門医療人養成コース、③包括的ライフステージサポート医療人養成コースの3つを設け、各コース年間1名計3名以上のがん研究の大学院生を受け入れることとなった。

3) カリキュラム内容の検証

- ・MD－PhDコースの広報を強化するために、平成30年度大学院入試対象者向けの大学院ガイドにMD－PhDコース目的、単位互換、入学資格、授業料、奨学金、研究費等を掲載した。
- ・大学院医学研究科医学系専攻博士課程共通カリキュラムの検証を行い、以下の内容を平成30年度に導入することとなった。

①「医の倫理」のコマ数を8コマから9コマに増やし、ヒトゲノム・遺伝子解析研究や人を対象とする医学系研究に関する倫理指針についての講義内容を拡充する。また、「医学研究法概論」では来年度より履修者へレポートを課し、出席数と双方が合格基準に満たした場合に単位を付与する。

②がんプロフェッショナル事業（関東がん専門医療人養成拠点）に加入する大学院生及びがんの研究を希望している大学院生を対象とし、共通カリキュラム選択科目に「がんゲノム医療」、「小児・AYA・希少がん」、「ライフステージがん」に関するe-learning授業を導入する。また、がんプロフェッショナル事業（関東がん専門医療人養成拠点）加入の大学院生は、e-learning授業に加えて、「大学院連携がんチーム医療ワークショップ」への参加が必要となる。

4) 国立がん研究センターとの連携大学院設置

東京慈恵会医科大学大学院医学研究科における連携大学院生として、国立がん研究センターより平成29年度に分子腫瘍学へ2名、包括がん医学へ2名、計4名が入学した。

5) 大学院（博士課程）入試

平成30年度の大学院（博士課程）入試は2回実施し、1回目は平成29年9月30日に、2回目は平成30年1月27日に実施した。その結果、41名（うち社会人9名）が合格した。また、転入志願者1名が合格した。本学の大学院生は本学の各講座、総合医科学研究センターのみならず、国立がん研究センター、国立成育医療研究センター、日本医科大学、東海大学、早稲田大学、大阪大学、横浜市立大学、千葉大学、ブリティッシュコロンビア大学など国内外の様々な大学、研究所でも広く研究を行っている。

6) その他

- ・平成29年度より制定した学位審査基準をもとに、5月より「学位論文審査評価表」の運用を開始した。5つの審査項目に基づく評価、Thesisの概要・目次・図表・参考文献等の適切性と体裁、倫理面の適切性を確認項目としており、審査委員長は総合評価をA～Dの4段階で行う。A～C評価は合格、D評価となった場合には申請者に対して、今後の審査対応について指示することとしている。
- ・学位論文審査委員の偏りを改善し、かつ専門性を重視するため、准教授の大学院教員任用を開始し、平成29年度は2名の准教授が任用された。
- ・学外で研究をすすめる大学院生への情報提供を目的に大学院医学研究科(博士課程)専用ホー

ムページを平成29年7月に新設した。本ホームページは、外部パソコンや携帯電話からも大学院の授業予定が確認でき、助成制度や各種届出に関する書類のダウンロードも可能としている。

- ・学位申請者より問合せが多かった学位申請の流れや転載許諾の内容が判るように、「学位申請の手引き」を作成し、専用ホームページに掲載した。
- ・入学後の手続きや勤務・届出関連の手続き、各種サービスをまとめた入学案内を作成し、新入生を対象に配布した。

2. 看護学専攻修士課程

平成29年度も継続して安定的な運営と各委員会との連携を密にして効率的運営に努めた。

1) 大学院教員・学生へFaculty Developmentの実施

平成29年度FDは、目的：よい研究論文を出版するために、論文の執筆から査読のプロセスにおいて「論文を書く立場」「指導をする立場」がどうあるべきかを学ぶFDとして開催した。

講師：横浜市立大学 学術院 医学群 医学研究科 看護学専攻 がん・先端成人看護学

落合 亮太 准教授

日時：平成29年8月5日（土）13：00－16：00

場所：東京慈恵会医科大学西新橋校舎カンファレンスA・B（大学管理棟9階）

参加者数：48名（教員・学生）

2) 研究助成制度について

学生に対する教育研究助成は、大学院研究助成制度によるものと研究指導費からの助成により、研究活動の範囲や内容を高めることを図った。平成29年度大学院研究助成制度による研究助成採択者は9名。

3) 入学試験について

入学説明会を7月4日（火）に実施した。参加者は15名。

入学試験出願期間：平成29年8月1日から9月30日

出願資格認定試験：平成29年10月8日に、口頭試問、課題レポートおよび書類審査を実施した。その結果、志願者は2名であり、合格した。

入学試験：平成29年10月15日午前に専門科目および外国語（英語）、午後に面接を実施した。20名の応募があり、12名が合格した。

4) 修了生について

平成27年度入学生3名、平成28年度入学生8名の合計11名の修了式を平成30年3月24日（土）に挙行了。

5) 教育課程の評価と改善

学生による授業評価は、講義終了後に科目責任者と履修生が講義内容について話し合いを持つ方式に改めて5年目を迎え、評価を踏まえ次年度担当教員を変更する等の着実な改善が速やかにできている。さらに、今年度から修了生による良かった点・今後の改善につなげて欲しい点等について、共通科目・専門科目・実習・特別研究Ⅰ・Ⅱごとに自由記載方式で、教育課程の評価を行うようにした。

6) 高度実践看護師教育課程（専門看護師）

高度実践看護師教育の在宅看護専攻を加えることを目指して38単位化申請を日本看護系大学協議会に申請し、承認された。

専門看護師教育課程を受講した8名が専門看護師認定試験を受験した。合格者は、急性・重症患者看護専門看護師6名、がん看護専門看護師2名の合計8名である。

7) 科目履修生

科目履修制度を利用した履修生は1名。がん看護学特論Ⅰ（がん看護に関する理論）（2単位）を履修し、単位を取得した。

8) 看護学専攻博士後期課程

平成31年開講を目指して平成30年3月19日に文部科学省に申請を行った。

6) 慈恵看護専門学校の状況

看護専門学校学生数（平成29年5月1日現在）

| | 学生総定員数 | 1学年定員数 | 1年生 | 2年生 | 3年生 | |
|------------|--------|--------|-----|-----|-----|-----|
| | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 |
| 慈恵看護専門学校 | 300 | 100 | 101 | 91 | 104 | 296 |
| 慈恵第三看護専門学校 | 150 | 50 | 51 | 51 | 57 | 159 |
| 慈恵柏看護専門学校 | 240 | 80 | 90 | 82 | 83 | 255 |
| 計 | 690 | 230 | 242 | 224 | 244 | 710 |

(1) 慈恵看護専門学校

I. 教学関係

1. 学校運営に関する会議

- ① 慈恵看護専門学校運営委員会は校長、副校長、教務主任、事務長の4名をもって構成され、定例として毎月1回開催されている。
- ② カリキュラム運営委員会は副校長、教務主任とカリキュラム委員6人で構成され月2回開催されている。
- ③ その他の会議は、教職員会議は定例月1回開催、教員会議が隔週で開催されている。

2. 教学関連の主な事項

- ① 平成29年度1年生（68期生）101名、2年生（67期生）91名、3年生（66期生）104名、合計296名で新学期をむかえた。
- ② 平成29年度オリエンテーションは4月6日から4月28日にかけて、学校生活を円滑に送ることができるようガイダンスが行われた。この間に上級生との交流する機会も持った。オリエンテーションの一環として1年生を対象に防犯対策講習、防災訓練を実施した。
- ③ 授業・実習評価アンケート
学生による授業・実習評価アンケートを基礎分野、専門基礎分野科目と、専門分野科目の講義及び臨地実習科目で実施し、結果について講師へ報告した。
- ④ 終講試験
同時出題方式（本試験・再試験・追試験）の試験出題依頼を行い実施した。
- ⑤ 平成29年10月26～27日、3年生の学外セミナーを実施した。「ケアの本質」について話し合い、看護についての学びを深めた。
- ⑥ 平成30年3月7日3年生の看護観発表会を開催した。
- ⑦ 平成30年3月10日に東京慈恵会総裁寛仁親王妃信子殿下ご臨席の下に、66期生の卒業式が挙行され、96名が卒業した。

II. 入学試験

1. 平成30年度入学試験は次のとおり実施した。

推薦・大学卒選考〔一次〕平成29年10月18日（水）〔二次〕平成29年11月4日（土）
一般選考〔一次〕平成30年1月17日（水）〔二次〕平成30年1月20日（土）
志願者数は284名（推薦66名・大学卒32名・一般183名）で、昨年度より3名減少した。

2. オープンキャンパスは、平成29年7月22日（土）・9月2日（土）の2回実施し、参加者数は385名（内訳は7月256名、9月129名）であった。

III. 国家試験

第107回看護師国家試験は、平成30年2月18日（日）に実施され、その結果が3月26日（月）に発表された。66期生96名、既卒者2名が受験し、全員合格した。